

# 移住者新聞

Vol. 3



左から平松さん、代表理事：松永さん、大倉さん、事務局長：河津さん

二〇二二年一〇月  
発行：日田市  
ひた暮らし推進室

## 設立のきっかけ

二〇一九年四月に設立。平成二十九年（二〇一七年）の九州北部豪雨の時に一緒に活動していた松永代表、河井さん、河津さんのメンバーと共に立ち上げました。一定の復旧復興の時期が過ぎて、平成二十九年の災害のみならず広く支援活動をしていきたいとの思いで法人化しました。

## 活動していく中で見えてきたこと

災害支援や防災活動をする中で「人との繋がりがつくり」に力を入れようと思ったきっかけがあります。それは、被災地にいる移住者が孤立していることを知ったことです。彼らは仮設住宅に入居し、ご近所との繋がりが薄く、地域に馴染んでいませんでした。そこで移住後の孤独や不安を軽減するために、移住者同士の間がらぎづくりのため、二〇一九年に、ひた暮らし推進室との市民サービス協働事業で「移住者

全国的に新型コロナウイルスの新規感染者数が減っている状況ですが、病院や施設等の医療現場では重篤患者もおられる厳しい状態が続いており、医療スタッフの方々の対応に頭が下がります。緊急事態宣言も解除され、飲食店の時短営業期間も終了しましたが、引き続きマスク着用、こまめな手洗いやうがい、手指消毒を徹底し、感染症対策を続けましょう。今号は、この移住者新聞の記事元になる移住者さんたちと一番近い存在で活動を続けるNPO法人リエラさんと、ひた暮らし応援団の活動を取材しました。

交流会」を開催しました。二つ目は、空き家が増えている状況で、将来的な集落の存在に危機感を感じることによって不安視している住民がいることです。今年六月より、日田市移住支援会合の事業の委託を受け、空き家バンク事業を行っています。具体的には、日田市内外の内見希望者や物件所有者との折衝、空き家バンク登録物件の案内や、物件調査、物件資料作成など、地元の不動産業者さんと連携しながら、一件でも多く成約に結び付くよう取り組んでいます。

## リエラの活動

**防災・移住・災害**にこだわって活動しています。人の命を守ることをお

互い平時からの支えあいや声掛けをし、地域と関わりながら「人」というところにクローズアップして活動しています。

私たちが皆様から支えられていることを痛感するメッセージや支援もいただき、とても励みになっています。

## 今後の展望

移住前から移住後までのフォローを一貫して取り組み、移住が促進され町が活気づけばいいと思います。今後も一人の百歩より百人の一步により繋がりをさらに広げつつ、光の当たりにくいところに眼を向け、耳を澄まして活動して参ります。また、限町に移住相談窓口を設けてますので、いつでもだれでも気軽に来てほしいです。我々だけじゃなく、ひた暮らし応援団や移住受入れ地域の方もいますし、いろんな方に関わってほしいと思います。

**NPO法人リエラ：移住よろず相談所KATETE**  
〒八七七一〇〇四四

日田市隈二丁目一〇九

代表：〇八〇一八五八二一五九一四

移住・空き家専用：〇九〇一四四二一四一〇〇

メール：info@re-area.org

SNS：<https://www.facebook.com/rearea.ota/>

移住定住情報：<http://re-area.net/>



ひた暮らし応援団研修



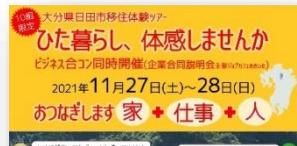
ひた暮らし応援団や林業就業者との交流会



天領まつりでの移住相談

### ひた暮らし応援団とは

移住を考えている人や移住した人に、「地域の情報」や「日田市の暮らし」「移住体験談」などを紹介したいと名乗りを上げたお店や宿泊施設、団体や個人です。イベントを通して移住者に寄り添い、ひた暮らしの豊かさを一層深めてくれる存在です。



COMING SOON!!



移住者の引っ越し作業を  
ひた暮らし応援団が支援



COMING SOON!!



移住者交流会での一コマ



移住者と自治会の班長さんをつなぐ  
ひた暮らし応援団



移住希望者とひた暮らし応援  
団とのふれあい



ひた暮らし応援団とリエラの企画による  
日田市への移住に興味がある方へのオンラインイベント♪